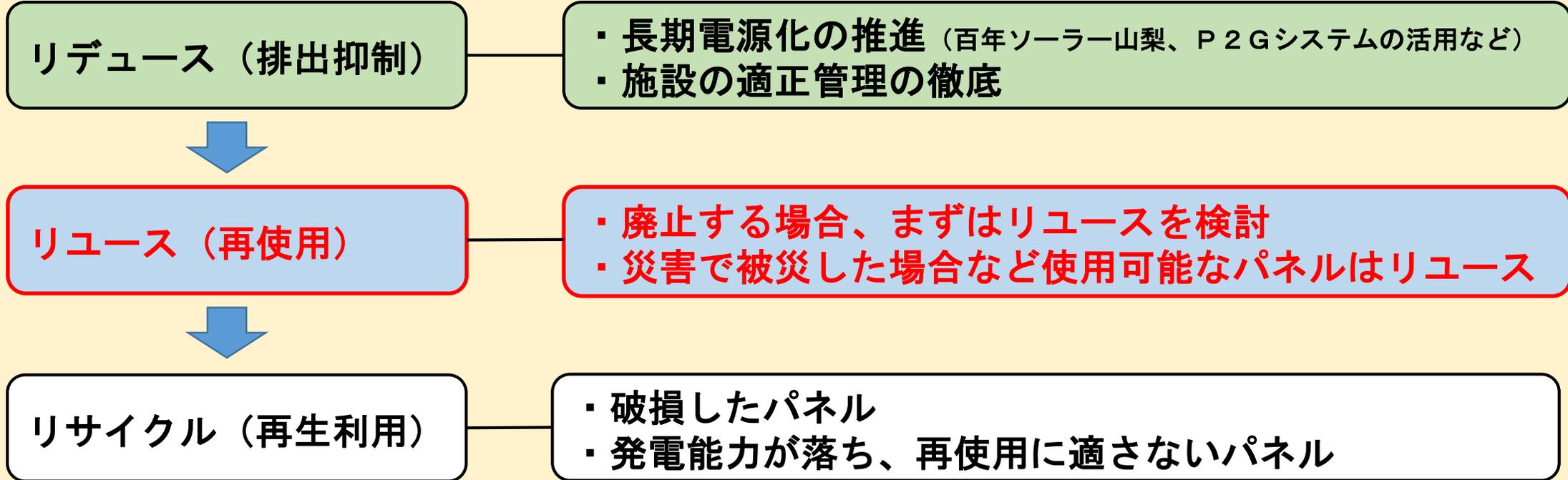


太陽光パネルのリユースの推進について

太陽光パネルの大量排出を抑制させる仕組み



期待される効果

- ★ 2050年カーボンニュートラル実現へ寄与
- ★ 最終処分場の残余容量の逼迫を抑制

■これまでの意見を踏まえた方向性

- ・長期スパンで考えると新品の方が得

①既存施設の破損したパネルや発電効率が低下したパネルの一部交換に活用

- ・リユース品の活用が進んでいない

②リユースへの活用に向けた周知活動

③発電事業者の実態把握

④統一的な品質基準による信頼性確保 → 全国統一制度とする必要

- ・回収コストなどでリユース品が高くなる

⑤効率的にパネルを回収できるシステムの構築 → リユース市場に依存

- ・高性能の検査機器を使用するとコストが高くなる

⑥品質基準を担保する簡易で安価な検査方法の確立 → 全国統一制度とする必要

- ・性能保証は必要であるが、コストが高くなる

⑦公的な保証制度の創設の可否 → 全国統一制度とする必要

短期的な取り組み

- ①既存施設の破損したパネルや発電効率が低下したパネルの一部交換に活用
- ②リユースへの活用に向けた周知活動
- ③発電事業者の実態把握



- ・リユースへの活用方法を周知（県HP、各種広報媒体、発電事業者へ直接通知など）
- ・リユースの相談先等の情報提供（国ガイドラインを遵守している事業者など）
- ・発電事業者へリユースに関する実態調査を実施

中長期的な取り組み

価格、性能、需要と供給のバランスなど（市場原理に左右） ⇒ リユース市場形成



- ・リサイクル施設の導入予定がある産業廃棄物処理業者にリユース事業への参入を打診
- ・国の検討状況を注視する中で、リユース市場の活性化に向けた方策の検討